

耕作放棄地を活用した自給飼料生産の取組を開始しました

近年、全国的に耕作放棄地の増加が問題となっています。京都府においても耕作放棄地が見受けられ、景観を損ねるだけでなく、野生動物の潜伏場所となることも懸念されています。

そこで当センターでは、本年度から、耕作放棄地を簡易な方法で管理しつつ、そこで生育する野草を家畜飼料として活用するための試験を開始しました。

今月は、ススキの大株が優占する耕作放棄地において植生調査を実施しました。今後は、休眠期前の秋の時期に根茎から刈り払うことでススキの繁茂を抑制し、家畜飼料として有望なチガヤやチカラシバを主体とした野草地への転換を目指します。



耕作放棄地での植生調査